

# ありがとうの絆

島根県 舜叟寺 住職 西古孝志

「夫が亡くなりました」。それは、あるお檀家の奥さんからの突然の電話でした。そのお家では数日後に法事を予定され、その準備をされていた最中の、お檀家さんの不慮の事故でした。私は親しかったお檀家さんとの突然の別れに、驚きと悲しみで胸がいつぱいになりました。

ご葬儀で奥さんが挨拶されました。「夫は毎日『ありがとう』を言う人でした。掃除をしてくれて『ありがとう』、ご飯を作ってくれて『ありがとう』。最初は、どんなことにも『ありがとう』を言う人だなと思っていたのですが、私もつられて夫に、掃除をしてくれて『ありがとう』、ご飯を食べてくれて『ありがとう』と言うようになりました。それから、互いに毎日感謝の気持ちを言い合うようになりました」と話されたのです。

それから一週間後、奥さんがお寺にお参りに来られました。そこで、私は葬儀の時の挨拶について、「毎日『ありがとう』を言い合うご夫婦の関係はいいものですね」と言いました。

すると奥さんは「そうですか。私たちにとっては『ありがとう』を言い合うことは当たり前のごとで特別なことではなかったのですよ。た

だ、夫が突然に亡くなってしまったので、悲しくて悲しくて毎日泣いています。だけどね。方丈さん、毎日『ありがとう』を言い合っていたことが、少しずつ悲しみを癒やしてくれるんです」。お檀家さんご夫婦から、感謝の気持ちを伝えあうことの大切さを教えていただきました。

私たちは、いつも接する身近な存在の人に気恥ずかしい部分もあつたりして、感謝の気持ちを毎日伝えあうことを避けてしまう傾向があります。しかし、感謝の気持ちを伝えあうことは、お互いの心を和やかにしてくれるはずですよ。

お檀家さんご夫婦は、「ほとんど喧嘩をすることなどなかったですよ」と話しておられました。時には、意見がぶつかることもあるでしょう。しかし、意見の相違を話し合うことも、互いの気持ちを伝えあう手段となります。「言葉」だけでなく「SNSなどで伝え合う」のも手段の一つですよ。

いつでもどこでも、誰に対しても伝え合う「ありがとう」の言葉、「ありがとう」を言い合う毎日を共に過ごしていきたいものです。まずは今日から「ありがとう」を言ってみませんか。